

令和2年度 小林市立小林小学校 自己評価書

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	家庭・地域との協働により、一人一人の子供の実態を把握・共有し、個に応じた支援を 行いながら知恵・声・汗を出す姿を見届けることを通して、自ら行動できる（学び、思いやり、きたえる）子供の育成を目指す。 ーみんなで一緒に成長しよう「学びいっぱい 思いやりいっぱい 元気いっぱい」ー					
	項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等 ※朱書箇所は本年度重点項目	具体的な取組	自己評価 取組別 総合	結果の考察・分析および改善策等
知育	<p>■目標 自ら学ぶ子供の育成 ー学びいっぱいー 一人一人が地域や社会に関心を持ち、課題について、他と協力ながら主体的に考え、判断し、表現することができる子供</p> <p>■手段</p> <p>1 地域や社会に関心をもたせる取組</p> <p>2 分かる・できる授業の推進（「主体的・対話的で深い学び」の場の確保による学力向上</p> <p>3 ICT活用及び補充学習の充実 投影スクリーン・デジタル教科書・タブレット・実物投影機等の常時活用</p> <p>4 キャリア教育の推進</p>	<p>1 学びたい度 80%以上</p> <hr/> <p>2 校内・三校合同研修の充実 一人1公開授業 マンター式による初期研修の充実 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書週間設定 [4月、6月] ・ 読書月間設定 [11月] ・ 読み聞かせ年間 13回計画 	<p>◎ 取組と成果</p> <p>1 学びたい度 64.9%←昨年度比 6.7 %増…学校楽しい 62.3 %/夢や目標 72.6%/地域への関心 51.7%/役に立つ 72.9%</p> <p>1 令元みやざき学力調査結果…県平均比較（現5年国・算→/現6年国・算↓）※算数：1単位時間終末5分間・1単元終末の個別定着の確認</p> <p>2 合同研修主題「生きる力の基となる思考力・判断力・親力の育成」と設定。現在14/19回実施。7月の学校訪問にて28コマ授業公開/12月：公開授業28コマ。</p> <p>2 読書活動の充実…不読者率 0%/1日平均利用者数：約 135名（最高155名）一人貸出平均：67.9冊/一月平均読書冊数：8.5冊 読み聞かせ実施（6/13回）※4、5月は臨時休業のため実施できず。</p> <p>3 ICTの常時活用推進…タブレット利用率27.7%/教員利用率19.3%</p> <p>3 単元テスト：国 84.8% 社 82.3% 算 79.9% 理 83.0%（10月現在）</p> <p>4 「こすもす科」改定1年目の取組とセンター職員からの情報提供</p> <p>● 課題…基礎学力の定着〔単元 T80点以上・少人数指導の効果的活用〕を確保を目途とした指導改善・個別指導/タブレットの積極的活用推進</p>	3.6	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度で学びたい度は向上しているが、まだ、目標の80%には届いていない。児童が主体的に学ぼうとする態度の育成をするために、教材や活動内容の工夫が必要だと感じた。 ・ 地域のことや自分の夢に目を向けるような取組の結果、昨年度よりも学びたい度が増えたのではないかと。 ・ 一人1公開授業を通して、互いの授業から学ぶことができた。実施時期が2学期前半に集中したので、授業を見る機会が少なくなる職員もいた。来年度は、年間を通して一人1公開授業を計画し、より多くの授業を参観できるようにしたい。 ・ 読書は、制限された中でも充実させることができた。ただ、「読書が進まない子」への働きかけを今後も工夫して継続する必要がある。 ・ web単元活用や個別指導の充実を図ることにより、基礎学力の定着をめざしたい。 ・ どの学級でもタブレットを活用して学べる子供達を育てるために、研修を充実させる。タブレットを更にとって、どんなことができるのかを知るとともに、活用例を紹介し合うようにする。
		<p>3 Web単元活用 100 % 単元テスト定着率 80 %以上</p> <hr/> <p>4 市教育研究センターとの連携</p>	<p>◎ 取組と成果</p> <p>1 挨拶リレー…感染症対策のため、生活委員会の朝の挨拶運動に変更</p> <p>1 基本的生活習慣…挨拶の励行。常時指導継続中（地域やPTAからの評価↓）。</p> <p>2 生徒指導状況（挨拶△、廊下歩行○、無言清掃◎）</p> <p>2 道徳・人権教育の取組…人権教育研修等実施（6月、夏季研修）、7・12月：西諸人権を考える日（命を大切にする日）実施・全学級学級活動実施（人権・参観日等）</p> <p>3 いじめ（けんか、からかい、ふざけ等を含む）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 即対応し、組織的に解消に努めている。重大事案となるいじめはない。 <p>3 不登校、及び登校しづり傾向児童について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との連携を図りながら、改善に向けて手立てを講じている。 <p>4 特別支援教育委員会・協議会6回開催…個別の状況報告、共通理解</p> <p>● 課題…落ち着いた生活態度に関する指導の連携…アンケート調査・観察、学級活動、道徳教育、教育相談、家庭啓発等の充実を通したいじめ、不登校対応</p>	2.6		
徳育	<p>■目標 自ら思いやる子供の育成 ー思いやりいっぱいー 一人一人が相手意識を持ち、主体的に思いやりのある適切な言動をすることで、よりよい人間関係を築くことができる子供</p> <p>■手段</p> <p>1 基本的生活習慣の定着</p> <p>2 自他の人権意識の向上</p> <p>3 問題行動（いじめ、不登校、非行等）の未然防止と早期発見 [見逃さない対応]</p> <p>4 特別支援教育の理念に基づく対応</p>	<p>1 登校後の挨拶リレー 廊下歩行 校内会釈等</p> <hr/> <p>2 「さん」付け呼称 人権週間の活用</p> <hr/> <p>3 いじめ・不登校の解消 問題行動件数の30%縮減</p> <hr/> <p>4 個に寄り添う丁寧な対応</p>	<p>◎ 取組と成果</p> <p>1 挨拶リレー…感染症対策のため、生活委員会の朝の挨拶運動に変更</p> <p>1 基本的生活習慣…挨拶の励行。常時指導継続中（地域やPTAからの評価↓）。</p> <p>2 生徒指導状況（挨拶△、廊下歩行○、無言清掃◎）</p> <p>2 道徳・人権教育の取組…人権教育研修等実施（6月、夏季研修）、7・12月：西諸人権を考える日（命を大切にする日）実施・全学級学級活動実施（人権・参観日等）</p> <p>3 いじめ（けんか、からかい、ふざけ等を含む）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 即対応し、組織的に解消に努めている。重大事案となるいじめはない。 <p>3 不登校、及び登校しづり傾向児童について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との連携を図りながら、改善に向けて手立てを講じている。 <p>4 特別支援教育委員会・協議会6回開催…個別の状況報告、共通理解</p> <p>● 課題…落ち着いた生活態度に関する指導の連携…アンケート調査・観察、学級活動、道徳教育、教育相談、家庭啓発等の充実を通したいじめ、不登校対応</p>	2.3	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶、廊下歩行の指導など、4月初めから全校で徹底していく必要がある。お手本となるものを用意したり、委員会を中心として良い姿を見せていくなど、子供たちが主体的に動ける機会も作りたい。 挨拶に関しては、家庭・地域とも連携していく必要がある。 ・ 言葉づかいについては、今後も継続してあたたかい言葉かけができるようにする。 ・ 子供に登校しづりの前兆が見えた時、早期の対応を組織的に進める必要がある。また、家庭だけでなく各関係機関とも連携しながら不登校が減るようにしたい。 ・ 些細な事案であっても、被害児童が苦痛を受けたと感じる場合はいじめと認知し、複数の職員で対応し、指導するようにしている。いじめとして認知することで、指導の場がふえ、心に訴える指導ができている。 ・ 非行がおきないように、情報の共有をさらに密にする必要がある。
		<p>3 問題行動（いじめ、不登校、非行等）の未然防止と早期発見 [見逃さない対応]</p> <hr/> <p>4 特別支援教育の理念に基づく対応</p>	<p>3 いじめ・不登校の解消 問題行動件数の30%縮減</p> <hr/> <p>4 個に寄り添う丁寧な対応</p>	<p>3 不登校、及び登校しづり傾向児童について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との連携を図りながら、改善に向けて手立てを講じている。 <p>4 特別支援教育委員会・協議会6回開催…個別の状況報告、共通理解</p> <p>● 課題…落ち着いた生活態度に関する指導の連携…アンケート調査・観察、学級活動、道徳教育、教育相談、家庭啓発等の充実を通したいじめ、不登校対応</p>		

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
体育	■目標 自らきたえる子供の育成 ー元気いっぱい Iー 一人一人が健康な生活習慣を身に付け、主体的に最後までやり抜くことで心と体をたくましく成長させることができる子供 ■手段 1 体力向上の推進 2 最後までやり抜く子の育成 3 立腰指導、正しい鉛筆握りの徹底 4 安全・防災意識を高める指導	1 新体力テスト項目県平均 50%以上 1単位 30分以上運動時間の確保	◎ 取組と成果 1 昨年度までの課題改善：勘・反復蹴り・シャトルラン・ボール投げの重点指導による改善 2 ボランティア活動…6年正門東門朝清掃、縦割ナール清掃、委員会活動充実 3 立腰指導…時と場に応じた立腰指導の取組 3 正しい鉛筆握り…7月：約51% 10月：約47% 12月：約56% (1年:63%/2年:49%) 4 「命」に関する取組…交通教室、避難経路確認、登校班長会、アレルギー対応職員研修実施/感染症対応…「教育活動がトライル」策定・啓発/職員による消毒の日常化/手指消毒の徹底(オートディスプレイ8基設置) 学校行事等の中止、延期、変更等(運動会、修学旅行、PTA行事等)	2.3	2.7	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、今年度作成した「体力向上プラン」をもとに、授業時や昼休みなどで活用できる事例集を作成し、常時体力向上に努めるような取組を行っていきたい。 6年生を中心にして、朝のボランティア活動に熱心に取り組む姿が見られた。縦割り清掃時も、高学年児童が中心となって、時間いっぱい清掃に取り組んでいた。よい雰囲気が出てきているので、来年度も継続していきたい。 正しい鉛筆握りについては、はしの持ち方とつながる部分が多いため、給食時間の指導や、通信において連携して取り組むことができると効果的ではないかと考える。 「命」に関する取組については、コロナ対策を行いながら、できる取組を進めてきた。
		2 ボランティア活動の充実 3 正しい鉛筆握りの定着率 90%以上	3 正しい鉛筆握り…7月：約51% 10月：約47% 12月：約56% (1年:63%/2年:49%) 4 「命」に関する取組…交通教室、避難経路確認、登校班長会、アレルギー対応職員研修実施/感染症対応…「教育活動がトライル」策定・啓発/職員による消毒の日常化/手指消毒の徹底(オートディスプレイ8基設置) 学校行事等の中止、延期、変更等(運動会、修学旅行、PTA行事等)	2.4		
食育	■目標 望ましい食習慣を身に付けた子供の育成 ー元気いっぱい IIー 一人一人が健康な生活習慣を身に付け、主体的に最後までやり抜くことで心と体をたくましく成長させることができる子供 ■手段 1 家庭・地域と連携した食育指導の推進 2 一人一人に応じた給食指導 3 健康な歯の堅持	1 地域人材・食材の活用 ふるさと教育の推進 弁当の日年2回	◎ 取組と成果 1 家庭・地域連携の食育指導…栄養士の食育授業、市食育教室(11月)学校HP等での啓発…毎日の献立紹介、地産地消献立やトピックス献立(季節料理、県産食材(マンゴー等)献立、リクエスト献立等)の紹介 弁当の日実施状況…11月(秋の遠足)※春の遠足中止(臨時休業) 2 給食指導等の状況…残菜量 1.9%(4月:3.8%5月:2.3%6月:2.4%7月:1.3%8月:0.9%9月:1.2%10月:1.7%11月:1.5%:前年度2.5%比-0.6%) 肥満傾向児童家庭への啓発(夏季休業中実施) 3 歯科治療率…約54.8%(119/217名)歯磨き指導は学校歯科医の都合により、本年度は各学級にて実施/学校保健委員会は感染症防止により中止予定	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 高度肥満の児童への定期的な声かけ、身体測定を続けることで、肥満度の維持改善に一定の効果があると感じたので、今後も続けたい。 家庭と連携した食育については、学校で学んだことが家庭へとつながる食育授業を進める。 小林小の残食は2%以下が続いており、かなり少ないと思う。今後も自力で食べられる量を知り、時間内に食べる指導を続けていく。 むし歯治療率については、何回か保健室からプリントで治療のすすめが出たので、昨年より治療率が伸びたように思う。 コロナウィルス対策下の中でできることはどの項目においても取り組んでいた。昨年度よりも数値が改善向上されている。
		2 食物アレルギー対応 肥満傾向児童減少 給食残菜率 2%以下 正しい箸握り指導	2 給食指導等の状況…残菜量 1.9%(4月:3.8%5月:2.3%6月:2.4%7月:1.3%8月:0.9%9月:1.2%10月:1.7%11月:1.5%:前年度2.5%比-0.6%) 肥満傾向児童家庭への啓発(夏季休業中実施) 3 歯科治療率…約54.8%(119/217名)歯磨き指導は学校歯科医の都合により、本年度は各学級にて実施/学校保健委員会は感染症防止により中止予定	3.3		
		3 むし歯治療率 50% → 70%	3 歯科治療率…約54.8%(119/217名)歯磨き指導は学校歯科医の都合により、本年度は各学級にて実施/学校保健委員会は感染症防止により中止予定 ● 課題…歯科治療率向上啓発・治療率 100%/食育について家庭との連携/健全な食生活基盤の構築による健康維持、肥満防止/継続した給食指導による残菜量の維持・改善。	2.6		
次年度の方向性についての 校長所見	全	○ ホームページや保護者への学校からの積極的な情報発信、及び誠意ある対応による信頼関係の強化を図る。 ○ 「褒める、認める」を基本とした指導を重視し、「自分のことが好きと思える子供」の育成を進める。				
	知育	○ 学び態度をさらに向上させる。特に、地域への関心を高めるために、「ひとものこと」についての学習を、地域人材を活用することで進めたい。 ○ 基礎学力の実態把握を行い、定着や習熟の機会を設定することで、学習の基盤となる能力を高める。 ○ 年間を通して一人1公開授業を計画し、より多くの授業を参観できるようにし、互いの授業から学び合えるようにする。 ○ ICTの活用推進については、タブレット活用研修会を複数回設定するとともに、「情報化推進チーム」を作り、活用を推進する。				
	徳育	○ 基本的生活習慣のうち、「挨拶ができる児童に育つ」ように、職員、高学年児童が手本を示すとともに、児童会活動やPTA活動とも連携しながら、指導の徹底を図る。 ○ 些細な事案であっても、被害児童が苦痛を受けたと感じる場合は「いじめ」と認知し、組織的に対応し、指導にあたる。 ○ 不登校傾向の児童が学校に来やすくなる環境作りや家庭への働きかけを進める。また、登校しぶりの前兆が見えた時、早期の対応を組織的に進める。さらに、家庭、及び各関係機関とも連携しながら対応する。 ○ 特別支援教育の理念に基づいて、一人一人の実態を全職員で共通理解しながら指導を進め、個に寄り添う丁寧な指導を行う。				
	体育・食育	○ 本年度作成した「体力向上プラン」をもとに、授業や、日常生活、昼休みなどで活用できる事例集を作成し、常時体力向上に努める。 ○ 「正しい鉛筆握り」については、低学年を中心にして三角軸の鉛筆も活用し、「正しい鉛筆握り」の定着を図る。 ○ 箸の持ち方の指導や残食の指導、肥満傾向児童への指導、及びむし歯治療のすすめ、等については、栄養職員や養護教諭と学級担任とが連携して指導を行う。				